

合格通信

今
月
の
名
言

何を志すにしろ、順序正しく進むことが一番である。これを無視すると、いわゆる豪傑肌におちいり、大言壮語をこととし、日常の些事をかえりみなくなる。日常の些事を大切にしないで、どうして物事が成就するのだろう。
安田 善次郎 安田財閥創始者

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。



名曲喫茶 中野篇

中央線の中野には「クラシック」という名曲喫茶がありました。あまりにストレートな店名に「もう少しひねれよ」と思ったのは私だけではあるまい。中野駅北口のサンモール商店街というアーケードのかかった中野のメインストリートに入って3本目だかの左側の細い路地を入ったところにありました。入ってすぐに食券を買うようになっていてここで買い忘れる人は新参者です。ここはとにかく古い、汚いで店内のタバコのヤニで茶色になったランプや木製のテーブル、ボロイ椅子はアンティークで初めていったときは終戦直後にタイムスリップしたような錯覚を覚えしました。事実終戦直後に建ててそのままということで、これが売りだったのです。2階まであったのですが、2階で人があるくとギシギシ床が鳴り、1階にほこりが落ちてきました。1時間もいるとなんだかかゆくなってきます。

今から25年前で、その当時コーヒーは300円ぐらいが一般的な値段でしたが、ここは150円という安さでした。味はインスタント・コーヒーに限りなく近いものですが、あるときオレンジ・ジュースを注文して、コップのふちに刺さっていたオレンジを見ると、明らかに使いまわしと思われるヨレヨレのオレンジに驚きました。1、2回どころか5、6回は使いまわしたような代物でした。船場吉兆どころではありません。ただ面白いことにここは「持込み可」なのです。ここでの持ち込みというのはLPやCDではありません。なんと「飲食物持込み可」なのです。夕方などに行くとよく女子高生グループが近くの「ハバ-ガ-ショップ」で買ってきたものを食べていました。



このマスターは当時70代後半ぐらいでしたが、中野の有名人らしく服は自分で仕立て、この喫茶店も大工さんと一緒に作り、絵も描き店内に飾ってありました。自作のオーディオはオーケストラのフォルテなどではスピーカーの音が完全に割れてガーガーで鑑賞に堪えるものではありませんでした。しかもレコードはキズだらけのものが多く、スクラッチノイズにまみれておりました。それでもここはいつ行っても混雑しており、五木寛之さんら作家や画家が集まる有名店でもあったのです。このマスターが1989年頃に亡くなり、そのころ行ってみるといつも休みで、しばらく休業したようですが、その後娘さんが引き継ぎ、2005年に閉店したそうです。もう行けません。

